ザ・ハートタイムズ　第７号　　平成２６年１１月発行

The Heart Times

医療法人社団慈弘会
内科・循環器 ハートサウンズ
もりクリニック
〒080-0028
帯広市西18条南3丁目1-21
TEL 0155-58-5077
http://www.jikoukai.org/

シリーズ　第7弾

逢いたい人

佐藤　千代子さん

医療・福祉・介護にささげた半世紀

　大樹町でこの方を知らない人はいない、と言っても大げさではありません。

　佐藤千代子さん（七十五歳）は、大樹町で助産師・保健師、そして現在は介護支援専門員として、半世紀にわたり第一線で活躍されています。

　佐藤さんは旭川市内で床屋を営む家に育ちます。その後、赤平市に転居。将来は教員になるつもりでしたが、高校時代に力試しに看護学校を受験したところ、学年でただ一人合格。昭和三十三年、札幌医科大学付属看護科、更には道立衛生学院助産科へ進学します。

　ある放課後「我が町にぜひ来ていただけないか」と熱く声を掛けたのが、大樹町役場の更正課長。家庭分娩から設備の整った施設で助産師による出産を勧めるために、大樹町内に母子健康センターが設立されました。卒業後は医大の助産師を志していた佐藤さんでしたが、成績優秀で卒業した憧れの先輩が上磯町母子健康センターで活躍している話を聞き衝撃を受け、新たな分野を開拓した先輩をお手本に大樹町へ赴任することを決意したのでした。

　一日の出産が多い時で三～四件重なることもあり、激務ではありましたが、自分の使命だと思い、助手と二人三脚で挑み、八百人の新しい生命の誕生に立ち会ってきたのです。

　昼夜問わない助産師の仕事は結婚・出産を控えた女性には自由の利かない仕事でもあります。そこで佐藤さんは猛勉強し、見事、保健師資格を取得。二十五歳で結婚し子育てもしながら町の保健師として働くことを選びます。町内の隅から隅まで一軒ずつ訪問し、衛生指導や環境整備の必要性を住民に説いてきました。

　昭和六十年、大樹町立病院婦長兼助産師として就任。院内体制の近代化に日夜奔走していたある日、体調に異変が…ペースメーカーの手術適応を告げられます。

　多くの場合、帯広の病院での手術を希望されますが、佐藤さんは自身の病院での手術、森光弘医師による執刀を熱望されました。それは共に働く職員との信頼関係を築き上げてきた佐藤さんにとっては当たり前の選択だったのでしょう。

　五十七歳で読売新聞賞を受賞し、六十歳で定年退職した後は、介護老人保健施設「ひかり」・居宅支援事業所「つばさ」へ入職されます。

「町民を見守ってきたと言われるけど、私のほうが見守られてきたの」「地域の人との繋がりこそが私の誇り」と語ります。

　佐藤さんがとりあげてきた子どもたちは今では親となり、そのまた子どもたちが結婚・出産し、町民の家族の歴史を紡いでいます。

　佐藤さんの凛とした姿は、これからの未来を創作する私たちに温かくそして厳しくエールを送ってくれているようではありませんか。

あとがき

　十月某日、スタッフみんなで帯廣神社を参拝してから出勤しました。〝自分を成長させるメッセージをくれる〟パワースポットとしてメディアに紹介されることも。

　これからの季節は空気が澄んで、星空もきれいに見えます。十一月十八日頃にはしし座流星群がピークを迎えますので、神秘の力に引き寄せられてみるのもいいですね☆

ダイナマイト・ミカ

インフルエンザワクチン接種の心得5カ条

①問診票は正確に書く！

②体調の悪い時は接種しない！

③上腕を出しやすい服装で！

④接種後はもまない！
「腫れたら冷やす」が基本！

⑤接種後の過度な運動や
お酒は控える！

第5回
いきいき♪健康カフェのご案内

日　時：平成二十六年十一月二十七日（木）
　　　　午後二時～三時
場　所：ハートサウンズもりクリニック
テーマ：冬場の運動ストレッチ
講　師：医療法人社団慈弘会
　　　　森クリニック奥山翔太柔道整復師
定　員：十　名
会　費：無　料
お申込みはスタッフまで